

永きに亘り、スキー界のトップリーダーとして、ご貢献された日々の御姿が強く心に刻まれております。

先生は大変おしゃれな方で、チロルハットとサングラスに凝っていました。その昔、汽車旅行が多く、誰よりも長いスキーを手縫いで作った白いケースに入れ、キスリングを背負って、十勝岳やニセコ、山形蔵王、長野の白馬などに旅行したことが思い出されます。

キスリングの中には、必ず一升瓶とおつまみが入っていました。旅館に着くとみんな先生の部屋に集まって、酒盛りが始まるのを楽しみにしたものでした。

先生の日本人離れした体格は、ダンディーで外国人のような風格が有り、少し怖くて近寄りがたい雰囲気をお持ちでしたが、優しく温かい愛情のある人でした。

チロルハットにサングラスとキスリングが大好きで、つい最近までこのお姿は変りませんでした。

1963年3月、クルッケンハウザー・オーストリア国立スキー学校教授による「オーストリアスキー特別講習会」がニセコ会場で開催されました。国家検定教師であり、オーストリアのトップデモンストレーターであるフランツ・フルトナー、バルトル・ノイマイヤー、ホルスト・シュバルツエンバッハによるデモンストレーションが行われましたが、特に、フルトナーのヴェーデルンは素晴らしいものでした。先生はこの方々の食事の材料を札幌から持参してきて比羅夫の駅に預かり、駅からホテルまで二回もキスリングに詰め込み、運んでおりました。裏方の仕事が好きだったようで、と言うよりは表に率先して出るのは好まない性格のようでした。クルッケンハウザー教授が、札幌市民会館での講演を終わり、坂井先生のご自宅を訪問された際には、日本のスキー、世界のスキーについて、遅くまでお話をされたと伺っております。



クルッケンハウザー教授と坂井先生

1972年2月、第11回札幌オリンピック冬季大会で、坂井先生は運営本部の輸送本部長でした。手稲山のアルペン競技場（男女の回転・大回転）、恵庭岳の滑降競技場、クロスカントリー平岡競技場、ジャンプの宮の森・大倉競技場等に輸送する競技役員は三千人にものぼり、朝の5時から札幌市役所の旧庁舎前より各会場にバス輸送を行う責任者でした。この他に乗用車100台を役員用に配車され、事故を含めた全ての管理を任されておりました。このため、全ての報告を本部長にしなければなりませんでしたが、冬道のため乗用車の事故は絶えませんでした。しかし、先生は事故報告を受けても、見て見ぬ振りをして事故の原因も聞かず全部処理してくれました。